

法令および定款にもとづくインターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書

連結注記表

株主資本等変動計算書

個別注記表

第 151 期（2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで）

東邦瓦斯株式会社

上記の事項につきましては、法令および当社定款 16 条の規定に基づき、当社ウェブサイトに掲載することにより、株主の皆さまへご提供しております。

連結株主資本等変動計算書

2021年4月1日から

2022年3月31日まで

東邦瓦斯株式会社

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計
当期首残高	33,072	8,387	258,850	△40	300,270
会計方針の変更による累積的影響額			996		996
会計方針の変更を反映した当期首残高	30,072	8,387	259,846	△40	301,266
当連結会計年度変動額					
剰余金の配当			△5,808		△5,808
親会社株主に帰属する 当期純利益			15,459		15,459
自己株式の取得				△1,608	△1,608
自己株式の処分		0		25	25
自己株式の消却		△0	△1,123	1,124	-
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)					
当連結会計年度変動額合計	-	△0	8,527	△458	8,069
当連結会計年度末残高	33,072	8,387	268,374	△499	309,335

	その他の包括利益累計額					純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額 合計	
当期首残高	45,179	6,198	1,005	6,838	59,222	359,492
会計方針の変更による累積的影響額						996
会計方針の変更を反映した当期首残高	45,179	6,198	1,005	6,838	59,222	360,488
当連結会計年度変動額						
剰余金の配当						△5,808
親会社株主に帰属する 当期純利益						15,459
自己株式の取得						△1,608
自己株式の処分						25
自己株式の消却						-
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)	△1,448	9,313	2,246	4,082	14,193	14,193
当連結会計年度変動額合計	△1,448	9,313	2,246	4,082	14,193	22,262
当連結会計年度末残高	43,731	15,511	3,252	10,920	73,416	382,751

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連 結 注 記 表

東邦瓦斯株式会社

2021年4月1日から

2022年3月31日まで

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

連結子会社数 28社 (東邦液化ガス(株)、水島瓦斯(株)ほか)

なお、当連結会計年度より、新たに設立及び株式を取得した3社を連結子会社とし、連結子会社間の合併により4社を連結の範囲から除外している。

② 非連結子会社の状況

非連結子会社数 2社 (東邦フラワー(株)ほか)

非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、連結計算書類に重要な影響を及ぼさないため、連結の範囲から除外している。

(2) 持分法の適用に関する事項

持分法適用関連会社数 3社 (MEET Europe Natural Gas, Lda.ほか)

持分法を適用していない非連結子会社(東邦フラワー(株)ほか)及び関連会社(知多炭酸(株)ほか)は、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外している。

(3) 会計方針に関する事項

① 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、その他有価証券のうち、市場価格のない株式等以外のものについては決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)、市場価格のない株式等については移動平均法による原価法によっている。

棚卸資産の評価は、主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっている。

② 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却は、主として定率法によっている。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用している。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

③ 引当金の計上基準

- (イ) 貸倒引当金は、当連結会計年度末現在に有する金銭債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。
- (ロ) ガスホルダー修繕引当金は、球形ガスホルダーの周期的な修繕に要する費用の支出に備えるため、次回修繕見積額について、当連結会計年度までの期間対応額を計上している。
- (ハ) 保安対策引当金は、白ガス支管、防災上重要な道路に埋設されているガス導管、白ガス供給管の入れ替え工事に要する費用の支出に備えるため、その見積額を計上している。

(追加情報)

白ガス供給管等については、2021年3月に経済産業省が公表した「ガス安全高度化計画2030」などを受けて、当社として経年管対策を一層強化することとした。

これに伴い、保安対策引当金を4,862百万円計上し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ同額減少している。

- (ニ) 器具保証引当金は、器具の販売に伴い保証するサービス等に要する費用の支出に備えるため、その見積額を計上している。

④ 収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりである。

(イ) ガス関連

主に都市ガス等の販売を行っている。都市ガスの販売については、ガス事業会計規則に基づき、検針日基準により収益を認識している。

(ロ) LPG・その他エネルギー関連

主にLPG等の販売を行っている。LPGの販売については、期末日までの顧客への引渡し義務が完了した分を合理的に見積り、収益を認識している。

(ハ) 電気関連

主に電気の販売を行っている。電気の販売については、顧客に引き渡した時点で収益を認識している。

⑤ その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る資産及び退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。

2. 会計方針の変更に関する注記

(1) 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第 29 号 2020 年 3 月 31 日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしている。

これにより、主に、LPG 販売に関して従来は検針日基準によっていたが、期末日までの顧客への引渡し義務が完了した分を合理的に見積り、収益を認識する方法に変更している。また、再生可能エネルギー発電促進賦課金は第三者のために回収する金額に該当することから、取引価格を、顧客から受け取る対価の額から当該第三者に支払う額を控除した純額により算定している。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第 84 項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用している。

この結果、当連結会計年度の利益剰余金が 1,216 百万円増加している。また、当連結会計年度の売上高が 7,134 百万円減少、売上原価が 7,454 百万円減少した結果、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ 320 百万円増加している。

(2) 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第 30 号 2019 年 7 月 4 日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第 19 項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第 10 号 2019 年 7 月 4 日)第 44-2 項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしている。

なお、当連結会計年度の連結計算書類に与える影響はない。

3. 収益認識に関する注記

(1) 収益の分解

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものである。

当社は、「ガス」、「LPG・その他エネルギー」及び「電気」の3つを報告セグメントとしている。

	報告セグメント				その他	合計
	ガス	LPG・ その他エ ネルギー	電気	合計		
ガス	293,110	—	—	293,110	—	293,110
LPG	—	67,431	—	67,431	—	67,431
電気	—	—	71,203	71,203	—	71,203
その他	29,216	26,463	—	55,680	23,632	79,312
顧客との契約か ら生じる収益	322,327	93,894	71,203	487,424	23,632	511,057
その他の収益	—	—	—	—	4,256	4,256
外部顧客への売 上高	322,327	93,894	71,203	487,424	27,889	515,313

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、LNG受託加工、不動産の管理・賃貸、プラント・設備の設計施工、総合ユーティリティサービス事業、住宅設備機器の販売、情報処理、リース、天然ガス等に関する開発・投資等を含んでいる。

(2) 収益を理解するための基礎となる情報

「1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等 (3) 会計方針に関する事項 ④収益及び費用の計上基準」に記載のとおりである。

(3) 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

記載すべき重要な事項はない。

4. 会計上の見積りに関する注記

(1) 海外関係会社等に関する投資等の評価

① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額 固定資産合計 10,331百万円

② その他の情報

(イ) 算出方法

資産に減損の兆候が存在する場合には、当該資産の将来キャッシュ・フローに基づき、減損の要否の判定を実施している。減損の要否に係る判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位によって資産のグループ化を行っている。

(ロ) 主要な仮定

固定資産の減損の要否の判定において、原油価格に基づく売上単価及び割引率等に一定の前提を置いて将来キャッシュ・フローを見積もっている。

(ハ) 翌年度の連結計算書類に与える影響

経済情勢の変化によって原油価格が下落した場合など、前提条件の変化によって見積りが変更されることにより、将来キャッシュ・フローや回収可能価額が減少し、減損損失が発生する可能性がある。

(2) 退職給付に係る会計処理

① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額 退職給付に係る資産 23,206百万円
退職給付に係る負債 5,919百万円

② その他の情報

(イ) 算出方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっている。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理している。

(ロ) 主要な仮定

退職給付債務及び費用の算定にあたり、割引率や年金資産の期待運用収益率等の数理計算上で設定される前提条件に基づいている。

(ハ) 翌年度の連結計算書類に与える影響

実際の数理計算結果が前提条件と異なる場合や前提条件を変更した場合には、将来の退職給付債務及び費用に影響を受ける可能性がある。

(3) 保安対策引当金

① 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額 保安対策引当金 19,045 百万円

② その他の情報

(イ) 算出方法

白ガス支管、防災上重要な道路に埋設されているガス導管、白ガス供給管の入替え工事に要する費用の支出に備えるため、その見積額を計上している。

(ロ) 主要な仮定

保安対策引当金の算定にあたり、対象のガス導管の延長や過去の実績に基づいた工事費用等の前提条件に基づいている。

(ハ) 翌年度の連結計算書類に与える影響

工事対象の拡大や、工法や物価の変動等により実際の工事費用が前提と異なる場合、将来の費用に影響を受ける可能性がある。

5. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

① 担保に供している資産

有形固定資産	7,133 百万円
無形固定資産	1,629 百万円
投資その他の資産	12,009 百万円
その他	2,382 百万円
計	23,154 百万円

② 担保付債務

担保付債務	50 百万円
-------	--------

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 1,195,640 百万円

(3) 保証債務等

保証債務	11,100 百万円
社債の債務履行引受契約に係る偶発債務	10,000 百万円

6. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

- (1) 当連結会計年度の末日における発行済株式の種類及び総数
- | | |
|------|--------------|
| 普通株式 | 105,256,285株 |
|------|--------------|

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

2021年6月28日の定時株主総会において、次のとおり決議している。

普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	2,903百万円
(ロ) 1株当たり配当額	27円50銭
(ハ) 基準日	2021年3月31日
(ニ) 効力発生日	2021年6月29日

2021年10月29日の取締役会において、次のとおり決議している。

普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	2,904百万円
(ロ) 1株当たり配当額	27円50銭
(ハ) 基準日	2021年9月30日
(ニ) 効力発生日	2021年11月30日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

2022年6月29日開催予定の定時株主総会において、次の議案が提出される。

普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	3,153百万円
(ロ) 1株当たり配当額	30円00銭
(ハ) 基準日	2022年3月31日
(ニ) 効力発生日	2022年6月30日

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定している。

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については預金等の安全性の高い金融資産で行い、資金調達については社債、コマーシャル・ペーパー及び銀行等金融機関からの借入により行っている。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、リスク管理規程に沿ってリスク管理を行っている。また、有価証券及び投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っている。

社債及び借入金等の用途は運転資金及び設備投資資金であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施し、リスクの低減をはかっている。

デリバティブ取引は、取引権限を定めた社内規定に従い、投機目的のための取引は行っていない。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2022年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、市場価格のない株式及び組合出資金等（連結貸借対照表計上額 29,150 百万円）は、「その他有価証券」には含めていない。

また、「現金及び預金」、「受取手形及び売掛金」、「支払手形及び買掛金」及び「短期借入金」は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略している。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
①投資有価証券 その他有価証券	83,294	83,294	—
資産計	83,294	83,294	—
①社債	80,000	78,183	△1,817
②長期借入金	54,056	53,456	△599
負債計	134,056	131,639	△2,416
デリバティブ取引	21,505	21,505	—

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類している。

- ・レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価
- ・レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価
- ・レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類している。

投資有価証券

上場株式及び社債は相場価格を用いて評価している。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類している。一方で、当社グループが保有している社債は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2の時価に分類している。

社債

当社の発行する社債の時価は、相場価格を用いて評価しており、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2の時価に分類している。

長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び同様の新規借入等を行った場合に想定される利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類している。変動金利による長期借入金の一部は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該借入金の時価については、金利スワップと一体として処理された元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率を基に、割引現在価値法により算定している。

デリバティブ取引

デリバティブ取引の時価は、取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類している。

金利スワップの特例処理によるものについては、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載している。

8. 賃貸等不動産に関する注記

(1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の連結子会社では、愛知県その他の地域において賃貸用の土地及びオフィスビル等を保有している。

(2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額	時価
15,357	39,425

(注1) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額である。

(注2) 当期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づく金額である。

9. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	3,641円75銭
1株当たり当期純利益	146円66銭

10. その他の注記

(1) 共通支配下の取引等

① 取引の概要

当社は、2022年4月1日付けで、当社の一般ガス導管事業等を会社分割の方法により東邦ガスネットワーク株式会社へ承継した。

② 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)等に基づき、共通支配下の取引として処理している。

なお、東邦ガスネットワーク株式会社へ分割、承継された資産、負債の金額は以下のとおりである。

(2022年4月1日現在)

資産		負債	
項目	金額	項目	金額
固定資産	167,279百万円	固定負債	19,726百万円
流動資産	6,230百万円	流動負債	13,664百万円
合計	173,509百万円	合計	33,391百万円

(2) その他

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。

株主資本等変動計算書

2021年4月1日から

2022年3月31日まで

東邦瓦斯株式会社

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		
						固定資産圧縮積立金	海外投資等損失準備金	原価変動調整積立金
当期首残高	33,072	8,027	0	8,027	8,779	311	2,997	23,000
当期変動額								
剰余金の配当								
海外投資等損失準備金の取崩							△447	
当期純利益								
自己株式の取得								
自己株式の処分			0	0				
自己株式の消却			△0	△0				
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	△0	△0	-	-	△447	-
当期末残高	33,072	8,027	-	8,027	8,779	311	2,550	23,000

	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価 差額金	繰延 ヘッジ 損益	評価・ 換算 差額等 合計	
	その他利益剰余金		利益 剰余金 合計						
	別途 積立金	繰越 利益 剰余金							
当期首残高	52,703	125,185	212,977	△40	254,037	41,630	6,441	48,071	302,109
当期変動額									
剰余金の配当		△5,808	△5,808		△5,808				△5,808
海外投資等損失準備金の取崩		447	-		-				-
当期純利益		13,708	13,708		13,708				13,708
自己株式の取得				△1,608	△1,608				△1,608
自己株式の処分				25	25				25
自己株式の消却		△1,123	△1,123	1,124	-				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						△417	8,719	8,301	8,301
当期変動額合計	-	7,224	6,776	△458	6,318	△417	8,719	8,301	14,620
当期末残高	52,703	132,410	219,754	△499	260,355	41,213	15,160	56,373	316,729

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

東邦瓦斯株式会社

2021年4月1日から

2022年3月31日まで

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

- ① 有価証券の評価は、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち、市場価格のない株式等以外のものについては決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）、市場価格のない株式等については移動平均法による原価法によっている。
- ② 棚卸資産の評価は、移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却は、定率法によっている。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用している。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

(3) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金は、期末現在に有する金銭債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。
- ② 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。なお、当事業年度末では、退職給付債務から未認識数理計算上差異等を加減した金額を年金資産が超過する状態のため、当該超過額を前払年金費用（投資その他の資産）に計上している。
- ③ ガスホルダー修繕引当金は、球形ガスホルダーの周期的な修繕に要する費用の支出に備えるため、次回修繕見積額について、当期までの期間対応額を計上している。
- ④ 保安対策引当金は、白ガス支管、防災上重要な道路に埋設されているガス導管、白ガス供給管の入替え工事に要する費用の支出に備えるため、その見積額を計上している。

（追加情報）

白ガス供給管等については、2021年3月に経済産業省が公表した「ガス安全高度化計画2030」などを受けて、当社として経年管対策を一層強化することとした。

これに伴い、保安対策引当金を4,862百万円計上し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ同額減少している。

⑤ 器具保証引当金は、器具の販売に伴い保証するサービス等に要する費用の支出に備えるため、その見積額を計上している。

(4) 収益及び費用の計上基準

当社の主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点については、連結注記表の「1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(3) 会計方針に関する事項 ④収益及び費用の計上基準」に記載した内容と同一である。

2. 会計方針の変更に関する注記

(1) 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第 29 号 2020 年 3 月 31 日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしている。

これにより、主に、再生可能エネルギー発電促進賦課金は第三者のために回収する金額に該当することから、取引価格を、顧客から受け取る対価の額から当該第三者に支払う額を控除した純額により算定している。

この結果、当事業年度の営業雑収益が 937 百万円減少、営業雑費用が 937 百万円減少、附帯事業収益が 6,492 百万円減少、附帯事業費用が 6,492 百万円減少している。

(2) 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第 30 号 2019 年 7 月 4 日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第 19 項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第 10 号 2019 年 7 月 4 日)第 44-2 項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしている。

なお、当事業年度の計算書類に与える影響はない。

3. 収益認識に関する注記

「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記 (4) 収益及び費用の計上基準」に記載した内容と同一である。

4. 会計上の見積りに関する注記

(1) 退職給付に係る会計処理

① 当事業年度の計算書類に計上した金額 前払年金費用 7,795 百万円

② その他の情報

連結注記表の「4. 会計上の見積りに関する注記 (2) 退職給付に係る会計処理 ②その他の情報」に記載した内容と同一である。

(2) 保安対策引当金

① 当事業年度の計算書類に計上した金額 保安対策引当金 19,045 百万円

② その他の情報

連結注記表の「4. 会計上の見積りに関する注記 (3) 保安対策引当金 ②その他の情報」に記載した内容と同一である。

5. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産

投資有価証券 443 百万円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 1,113,247 百万円

無形固定資産の減価償却累計額 2,711 百万円

(3) 保証債務等

保証債務 14,441 百万円

社債の債務履行引受契約に係る偶発債務 10,000 百万円

6. 損益計算書に関する注記

関係会社に対する売上高 3,868 百万円

関係会社からの仕入高 29,450 百万円

関係会社との営業取引以外の取引高 4,446 百万円

7. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度の末日における自己株式数 155,339 株

8. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因

繰延税金資産

保安対策引当金、減価償却費限度超過額、賞与引当金

繰延税金負債

その他有価証券評価差額金、繰延ヘッジ損益、海外投資等損失準備金

9. 関連当事者との取引に関する注記

会社名	議決権等の 所有(被所有) 割合	関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
東邦液化ガス 株式会社	所有 直接 100%	子会社	資金の貸付 (注1)	6,627	関係会社 長期貸付金	3,400
					関係会社 短期債権	5,260
金沢エナジー 株式会社	所有 直接 43%	関連会社	資金の貸付 (注2)	5,715	関係会社 長期貸付金	5,715

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 資金の貸付については、CMS (キャッシュ・マネジメント・システム) による取引であり、取引金額は期中の平均残高を記載している。また、市場金利を勘案して利率を合理的に決定している。

(注2) 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定している。

10. 1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産額	3,013円57銭
1株当たり当期純利益	130円05銭

11. その他の注記

(1) 共通支配下の取引等

① 取引の概要

当社は、2022年4月1日付けで、当社の一般ガス導管事業等を会社分割の方法により東邦ガスネットワーク株式会社へ承継した。

② 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)等に基づき、共通支配下の取引として処理している。

なお、東邦ガスネットワーク株式会社へ分割、承継された資産、負債の金額は以下のとおりである。

(2022年4月1日現在)

資産		負債	
項目	金額	項目	金額
固定資産	167,279百万円	固定負債	19,726百万円
流動資産	6,230百万円	流動負債	13,664百万円
合計	173,509百万円	合計	33,391百万円

(2) その他

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示している。